THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

女學雜誌

驛遞局認可　明治十九年四月廿四日　毎土曜日發兌　第拾九號

此の繪の説明は本紙中に在り

The Engraving illustrated in another page.

東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　發行所　績文舍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學叢誌第十九號目次

●官報●女學叢談●女子の敎育ハ男兒よりも先にをべし●中外新報拾壹件●庭訓の鑑●東照宮御消息の續●英語の栞（附羅馬字話なし）●泰西箴諺の直譯●內外列女傳●平賀源心室白絹の勇力（表書傳）烈女岡谷さわ子●王氏●群芳詞苑●閨秀新品●女紅●香道前號續き●裁縫●美人となる妙法●ワールン氏西洋料理法の飜譯（前號の續き）●稗史小說●西江月話●御伽草●兄弟菓を種ゑ外謎考物●机の塵●犯姦仕置外二題●和書講義●つれ〳〵草

明治十九年四月廿四日

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵稅壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢
五拾冊	同金壹圓七拾錢	同五拾錢

但シ東京十五區內郵稅不申請

本舍ハ御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ叢誌配達不仕事に內規相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵稅共郵便爲替又ハ通運便にて御送附わらんとを希ふ○郵劵代用ハ御斷り申上候萬一郵便切手を以て代價御送附の節ハ壹錢切手にて一割增を乞

郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込ミ其爲替劵を本舍へ御送附可被下候

但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

明治十九年 女學叢誌每土曜日發兌表

一月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
二月	六日	十三日	二十日	廿七日	
三月	六日	十三日	二十日	廿七日	
四月	三日	十日	十七日	廿四日	
五月	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
六月	五日	十二日	十九日	廿六日	
七月	三日	十日	十七日	廿四日	卅一日
八月	七日	十四日	廿一日	廿八日	
九月	四日	十一日	十八日	廿五日	
十月	二日	九日	十六日	廿三日	三十日
十一月	六日	十三日	二十日	廿七日	
十二月	四日	十一日	十八日	廿五日	

廣告料定則

一行二十七字詰	壹回分	二回分	三回分	四回分
自一行至十行	八錢	七錢	六錢五厘	五錢
自十一行至二十行	七錢	六錢五厘	六錢	四錢五厘
自二十一行至三十行	六錢	五錢五厘	五錢	四錢
自三十一行至五十行	五錢五厘	五錢	四錢五厘	三錢五厘

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎官報

本年四月九日

○朕小學校令を裁可し玆に之を公布せしむ

御名　御璽

明治十九年四月九日

内閣總理大臣伯爵伊藤博文
文部大臣　森　有禮

勅令第十四號

小學校令

第一條　小學校を分ちて高等尋常の二等とす○第二條　小學校の設置區域及位置ハ府知事縣令の定むる所に依る○第三條　兒童六年より十四年に至る八箇年を以て學齡とし父母後見人等ハ其學齡兒童をして普通教育を得せしむるの義務ある者とす○第四條　父母後見人等ハ其學齡兒童の尋常小學科を卒らさる間ハ就學せしむへし其就學に關する規則ハ文部大臣の認可を經て府知事縣令の定むる所に依る○第五條　疾病家計困窮其他止むを得さる事故に由り兒童を就學せしむること能ハすと認定するものにハ府知事縣令其期限を定めて就學猶豫を許すことを得○第六條　父母後見人等ハ小學校の經費に充つる爲め其兒童の授業料を支辨すへき者とす其金額ハ府知事縣令の定むる所に依る○第七條　寄附金及其他の收入金ありて小學校の經費に供するときハ其收入及支出の方法ハ府知事縣令の定むる所に依る○第八條　授業料及寄附金等を以て小學校の經費を辨し能ハさる場合に於てハ區町村會の議決に依り區町村費より其不足を補ふことを得○第九條　小學校教員の俸給旅費ハ府知事縣令の定むる所に依る○第十條　小學校資金の收入及支出ハ其管理者より每三箇月府知事縣令に報告すへし○第十一條　小學校に屬する資產の管理に關する規程ハ府知事縣令の定むる所に依る○第十二條　小學校の學科及其程度ハ文部大臣の定むる所に依る○第十三條　小學校の教科書ハ文部大臣の撿定したるものに限るへし○第十四條　私立學校に於て小學校と均しき普通教育を兒童に施さんとする者ハ豫め府知事縣令の認可を經へし○第十五條　土地の情況に依りてハ小學簡易科を設けて尋常小學科に代用することを得但其經費ハ區町村費を以て之を支辨すへし○第十六條　小學簡易科教員の俸給ハ地方税を以て之を補助することを得

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎女學叢譚

○女子の教育ハ男兒よりも先にすべし

誰れか云ふ女子と小人とハ養ひ難しと今や盲唖の種族と雖も尋常の教育を受くるとを得況んや耳目精神一も缺くるなきの女子に於てをや又況んや古の女子と雖も同くこれ女子なり耳あらさるに非す目あらさるに非す精神共に確かなるハ今日の婦人に敢て異らざるに於てをや然るに之を養ひ難しと謂つて不問に措きしハ女子の身に取り誠に以て不幸千万の至りとや云ハん蓋し是れ當時にありて自から女子教育の道あるを知らざりしに職由するものにして能く其の教育法を知るあらば豈に亦た養ひ難しと謂つて不問に措くの道理あらんや其の証據にハ當時にありても稍や學問智識あるの女子ハ之れを賢婦才女と稱して非常に尊崇せられたりき是に因つて之を觀れバ當時の教育家と雖も必すしも不問にハ措かざるべきも哀ひ哉其の方法を知らざりしが故に女子天賦の良智良能も發達せしめ得すして遂に止むもの比々皆な是なり其の偶ま賢婦才女と稱せらるゝの人も元と異成の教育法によりて教育せられたるよ非れハ中々以て完全無缺の者とハ謂ひ難かりしなり今や我か國ハ幸ひに上政府より下人民に至る迄女子教育の一日も忽かせにすべからざるを曉り府下ハ勿論其他地方と雖も到る處女學校の設けあらさるなく隨つて其の教育も大に法を得たりと雖も支那の如きハ今猶ほ古人の彼語を墨守して依然教導かざるを以て國家毫も開明の域に進ます日に月に益そ不振の景狀を現ハすに至れり

夫れ女子ハ、男兒に比して其体格こそ劣りされ其性情神經の如きに至りてハ却て男兒よりも強且つ鋭にして物に感動し易ければ能く其法を用ゐて之を導けハ必ずしも成らずと云ふとあし顧みて歐米諸國の婦女社會を看ふれよ普通學科ハ如何なるものと雖も修めずと云ふとなく其他中等以上の婦女に至りてハ大抵二三箇國の語に通し美術なり經濟なり理學なり醫學なり法學哲學等の專門を學び學士の稱號を得ざるものハ殆んと恥辱の如く相成居れり是を以て其の他に嫁して人の妻たるに及びてや能く家政を掌りて過ちなきのみならす良人を助けて其著述なり商法なり謂ハゞ顧問官の如き狀勢まて成立たしめ十分教育の結果を現ハし又人の母たるに至りてや其の子の躾方ハ男親に委すして一切己れが引受けて薰陶するが故に此の母にして此子あるとも申すべき世に高尚なる人物を生ずるな

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

りされば女子教育の國家に大關係を有するは固より論を俟たさる所にして今日我國の如き漸やく開明の域に歩を進めたる斗りの國に在ては男兒よりも先つ女子即ち教育の母たる者の教育より勉めて盛にせざれは著るしき進歩を見るとは到底能はさるなり世の女子の父兄たる者は須らく此點に着目して男兒と同しく十分の教育を受得さすべし女子の教育は決して家事向の事より裁縫紡織のみに限らす三絃舞踏の如きは全く習はすもあれ智識を研き才能を伸へ婦徳を全ふして以て人の妻人の母たるの資格に背かさるこそ其の本旨なるべし願くは其の女子たる人も亦決して一歩を男兒社會に讓らさるの精神を發揮し勉強以て父兄の意に副ふ所あれよ

◎中外新報

○觀櫻御宴　來る二十八日聖上皇后宮には濱離宮に於て觀櫻の御宴を開かせ給ひ同日親王各大臣勅任官麝香間祗候有爵者夫人並に各國公使等を召させらるゝ由尤雨天なれは御止に遊はさるゝやに承まはる

○行啓　皇后宮には去る十三日赤羽村へ行啓あらせられ當日御陪乘は室町典侍供奉は香川大夫三宮亮柳原權典侍万里小路小池兩權掌侍三上七等出仕西命婦吉田權命婦等なりし

○ルイーズ姫　英國皇太子の御女ルイーズ姫は這回丁抹國の皇子オスガル親王に嫁かせらるゝ由倫敦より或る方へ通報ありしと云えり

○華族女學校　同校にては教場至つて狹けれは增築の儀を達せられ內匠寮にて近日其の工事に着手せらるゝよしなるが費額は三千余圓の見積なりと云ふ

○露國莫斯科大學校　本年一月廿六日露國ノウオスチ新聞に記せる處に據れば仝大學は同月廿二日が創立以來百三十一年に相當するを以て一大祝典を擧行したり云々

○翠香院尼　故木戸內閣顧問の未亡人翠香院尼は去る十一日京都に於て卒去されし由にて同尼の墓誌は左の如く撰まれたりと云えり

翠香院君墓誌

君名松子。京都人也。爲人貞順婉淑。文久慶應之際。方贈正二位前內閣顧問木戸孝允公鞅掌王事。知其爲人可深和結託。扶之於流離艱難中終爲配。後禍乱戡定。公立廟堂。參與樞機者。君貞烈之德。爲之輔翼居多焉。及公薨雉髮。法諱稱翠香院。寡居于京都木屋町街別邸。奉仕公廟。十年如一日。明治十九年

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二月○罹胃病○四月十日終不起○享年四十四○嗟呼哀哉○

○婦女海外出稼取締　長崎縣にては海外へ旅行する婦女子は何か一廉の目的を達するの見込あるもの又は夫婦同行の外は一切出稼を差止られしやに聞く

○帝國大學定額金　帝國大學にては本年度の定額金を各學科に割付し文部省會計局よりして出張の上取扱はるゝこととなり又各學科とも定額高に超えさる以上は教授の見込を以て之を流用するも差支なき事にせられたりとぞ

○大學院學生等諸規程　（前號續）

大學院學生給費及補助規程

第一大學院に於て給費學生を命せらるは特別奨勵を要する學科に限る者とす○第二給費學生は各學資一箇月金十五圓（一箇月未滿の端數は日數に應し日割を以て給す）を受け攷究の爲め各學科に就き定る所の旅費を受くることを得自費學生の補助は所定の旅費に限る者とす○第三大學院學生其攷究期限内に於て品行不良學業懈怠若くは疾病に罹り成業の目的なき者は之を除名す

分科大學特待學生規程

第一學術優等品行方正なる學生を選ひて各分科大學の特待學生と爲す○第二特待學生は毎學年の末其學年試驗の成績に依り帝國大學總長の認可を經て各分科大學長之を定む○第三特別保護を要する學科に限り當該學年内左の等給に依り特待學生に資金を給與することあるへし　第一等月額六圓年額七十二圓　第二等月額五圓年額六十圓　第三等月額四圓年額四十八圓但一箇月未滿の端數は日割を以て給與す○第四特待學生其學年内に於て品行不良學業懈怠若くは疾病に罹り成業の目途なき者は之を除名す

（以下次號）

○化粧假面　本年四月十九日發兌ジャパンメールに云ふ前略亞米利加合衆國紐育府の或る小間物店に新しき一の看板を揭けて婦人の寐る時被る化粧假面と云えるを賣出せし處之を被つて寐ぬれば其顔美くしくなるの呪ひなりとてわれもくと買ふ者多く其の製方は大小數種ありて絹布と綿とを以て製しありと云々

○女獸醫　大坂府綴喜郡大住村なる田宮九右衛門の妻りう女（四十三年）は去る五日より開かれし大坂第一回獸醫開業試驗に受驗者となりて出頭せし處點數の不足なりし爲め惜ひ哉落第したる由女の獸醫はりう女が嚆矢なるべし

○沖繩縣の婚姻式　處變れは品變る浪華の葦は伊勢の濱荻と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やら況て先年迄ハ一國をなし居りし琉球の事あれば我内地と風習の自ら異るハ無論の事なり其婚姻式を聞くに先配偶させんと思ふ双方の親ハ幼稚の折より内約を結び置き十四五に至て其式を擧るが當日の夕方にハ婿ハ白衣を以て面を掩ひ竹馬に乗て女家に來り酒宴の後一同此婿を連て遊廓に徃き四五日遺游するも決して婿ハ娼妓と同衾せす只其顔を見るのみにて自然新婦と親み度念の起るを待て歸來る風習にて其間新婦ハ獨り空閨を守り居ると云ふ果して信なるにや

○ブルガリヤの勇婦　パルマルパジェット新聞にブルガリヤ勇婦の事を委く記載しあれど本号餘白なきを以て次號に譯出すべし

◎庭訓の鑑

○東照宮御消息の續　堀田美津子

一　奢心なく物毎倹約を用ひ常に其程を能知るを以て政道正しきといふなれども下々ハ過分に知行其外賜る物にあきたらず其程に施しわたふるをば奢る者に引當て吝嗇の取沙汰いたし候古より賢主の過分に賜り物萬事花麗の行ひハなく身を慎み倹約を用ひ候事に候

一　惣て召仕候者の何ぞ仕落か不調法にてしかり候事其者のよく得心いたし向後改めさせ候様に致し候事主人たる者の第一に候我等年若より専心懸候故異見を加へ候者誤を改めぬ者ハなく候兎角いか様にも人をすてぬ様に致度事に候先あやまち候者へ其あやまち候事斗申てしかり候故心得違いたし主人を恨み候様に成行夫迄よく勤候ものも不足の心出來不勤に成候て主人を疎む様に成候事全く異見の致方悪敷ゆゑ人を捨ると申ものにて候異見の致方ハ其者を呼出し一人側にとりなし候者を置外の者をば退け常よりも詞を和らげ前に其方ハヶ様の節何の手柄を致し何の節よく勤め候などゝ其者の心を悦しめ其後ヶ様の不調法ハ其方にハ似合ぬ事と心よく申聞せ呉々此巳後相改め前々の通心付つとめ候様に申聞せ候へば其理に服し身の誤を存じ相改候ものにて候主人たる者ハ一人にてもよき人の出來る様又如何様の輕き者にても科人の出來ぬ事のみを心がけ身を慎み候事肝要にて候いかやうの利發の者も主人の目よりハ行届ぬものにて候まして並々の者ハ拔がちの事にわるべく候其行届かぬ所をば主人より行届候様に心付不調法にならぬ様に致し召仕候事心懸第一の事に候召仕候もの科に申付候者多きハ主人の科にて候

（以下次號）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○泰西箴諺の直譯

(甲)㊀饑餓、空腹(は)㊁最も良き㊂醤油(で)㊃有る

(乙)㊀顔(は)㊂心㊁之㊃索引、目錄(で)㊄有る

(丙)㊀他人(の)㊁過失(よ)㊂由て㊃賢き㊄人(と)㊅彼等(賢者の)㊆自己(を)㊇正す

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Hunger is the best sauce.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

〔意譯〕空腹と 最も 美味也

(乙) The face is an index of the mind.
㊀ ㊄ ㊃ ㊁ ㊂

〔意譯〕思ふ事は 面に 表はる

(丙) By others' faults wise men correct their own.
㊂ ㊀ ㊁ ㊃ ㊄ ㊇ ㊅ ㊆

〔意譯〕賢者は 人の 過を 見て 己れ の 過を 正す

ŌISI TO ŌBŌSI.

Aru sibai ni oite Chūsingura no kyōgen wo nasi, kenbutsu-nin michimichitari. Kyōgen nakaba ni sajiki ni oite, tansokusuru mono ari; sono iu tokoro wo kikeba: "makotoni gakumon wo susumuru mono wa sibai nari; sibai wa minaku=tewa naranu mono nari; Ware kotosi rokujū ni nareri gojū-ku nen ga aida Ōbosi wo Ōisi nari to omoi ayamaritari; ima, si ni chikaki tosiyori, hajimete sono ayamari wo siru wo etari; ani saiwai narazu ya ? to.

Yo ni makoto to itsuwari to wo ayamaru mono tada kono Ōbosi to Ōisi to nomi narazarubesi.

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○平賀源心室白絹の勇力　〔表啇傳〕

海野口の城主にて平賀修理亮入道源心の室白絹と云えるハ日頃男兒にもおさ〳〵劣らざる勇力ありと聞えつるか天文五年の冬十一月武田左衛門尉信虎八千余騎を卒ゐて同城を攻たりし時白絹ハ一人城上よ現れ出これハ平賀入道が妻にて白絹と申す者なるがこの處へ押寄せられしハ武田殿と見受たり遠路遙々のおん出なれば聊か御馳走までよと大音に呼ハりながら夫卒二十人にて運び來りし大石を一双の玉繊もて輕々と捧げつゝ礑とバかりに投出しければ武田勢ハ矢庭に五十人が程壓に打され血を吐きて死したりける其の勇力昔しの巴板額女と雖もこれにハ及ぶまじき狀勢なるにぞ武田勢の備も大に乱れ色めく處を入道ハ百余騎從がへて打て出散々に打退けたり其後十二月に至り信虎ハ攻あぐみて一旦甲州へ歸陣し其の嫡子晴信代りて出軍し平賀の隙に乘じて無二無三に攻たりしかば流石の平賀も支え難く遂に海野四郎幸綱の爲めに首を打れたりかゝる所よ白絹ハ我夫の首返せとて小櫻威の鎧を着け薙刀を水車の如く振廻して海野目がけ切てかゝり海野も名たゝる勇士なれど一時ハ危く見えたりしに其郎黨望月鐵之助なるもの鐵砲をもて狙擊し過たず白絹の胸元を射たりしかハ鬼神をも欺く勇婦なれども何かハ以て堪るべき馬より直逆まに落ちてぞ死失たりされバ敵方の者共も皆な一同に其勇を稱し斯ゝる勇婦ハ古往今來絶えてあらざるべしとて舌を卷て驚かぬハなかりけるとなん

○烈婦岡谷さわ子

編者云ふ左の一篇ハ東京大學助敎授なりし飯田武卿氏の誌す所にして其文極めてうるハしければ看客等閑に見過し給ひぞ

上野國邑樂郡館林藩主秋元家に世々仕へて其家の老をつとむる林庄左衛門成昌と云ふ人ありけり後に恪齋といへりそれが子を友紀といふ友紀の妻の名をさわといふこれも同じき藩士岡谷喜兵衛繁正と云へるが二女なりいとけなくして父をうしなひ母に從ひてその家にやしなハれけり其兄を繁實といふ是も同しく世々家老の家なりけりさるをさなき時よりよにすぐれてさとく何事も人にまさりけるが上にかたちはたとひよのりけれハかの友紀にをもハれて年十八にしてその家にとつぎにけりいもせのおからひもいとむつまじくてなんありけるか

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ゝるほとゝ元治慶應の間朝廷と關東との御中に事をこりて天の下の人心二になりぬ此館林の藩主秋元志朝ぬしハ長門國萩藩主毛利定廣後元德ぬしとハ兄弟にてありけれバ關東よりも一きハめをそバたてつゝありけるに藩の内の人々もあるハひがしにつきあるハ毛利氏に心をよせなとしけりさるを時のをとなにありける岡谷繁實ハもとよりをもきこととしりをむねとして心を朝廷によせたりけれハしは〱關東の疑をなんうけたりけるされとそれにすこしも心をうごかさず人々をいざなひて尊王の道をうたくまもりつゝありけるにかの林氏またその餘のともがらハこれにしたがハず心をひがしによせければ藩のうちおのづから二つにわかれはてゝ火水の勢をなんなしける友紀の妻きわハその中にはさまりていとくるしき中にも夫によく仕へ父母の怒をやハらげ兄繁實の事になげきながら心をいためつゝなん有けるその〱ちいよ〱關東より萩の討手むけんとしける時ハ繁實ひそかに君の命をうけて京都にのぼり時の大臣執政などに事とかりしけるがその事おこなハれずつひに元治元年十月につみせられて其の國のとらへれとなりぬかくありければ林氏のともから時を得て勢ひも盛んになりにけり繁實ハ重きつみありとて家の祿をもとりあげられぬきわの悲みハせんかたなくたゞ涙にむせびてのみなんありけれど人にむかひてハ更にいろにもいださずます〱よくその家に仕へてありけり明治中興の御まつりごと行ハれしより藩をやめ縣をおかれにしかはさきの武士たちもみな民と一つになりてこの林氏も商のわざをはしめ同し國の並木町といふ所に家をうつして石きる工どもをあつめてこれをあきなひけるに日に從ひて賑ひけり妻きわももとよりさかしき女なりければあけくれ其の商ひの事どもをものになきえるし何くれとよりまかなふにつきなからずいとよく其の道にもたへたりしかば家もよく治まりにけり

（以下次號）

〇王氏

淸國鍾祥の人にして王氏と云るハいといとけなき頃よりして容貌いうにやさしく昔の西施毛嬙も羞ちて顏を掩ひ南國楊妃も愁ひて首を背ける程にありければはやくも張氏の子に見初められて年紀十八にして彼の家に適にけりされば夫婦のなからひハ頗るむつまじくこれを蛇に譬へなバ双頭の蛇之れを魚に比べなば比目の魚とも稱すべく入つてハ室を同じふし出てハ車を同ふし世人の羨みに堪えざるやうありけれども月に村雲花に風盈れば缺くるが世のならひにて一輒足らぬろの中

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に良人張士華ハ病に罹りて死亡たり王氏の歎きハいふばかりぞ死なば一處とかたらひし良人に冥府へさきがけされてハ最早この世に存命とも樂み更らよあらざれハ寧ろ倶して死てんと其の聲數里の外に聞ゆるまで泣き悲しみしも鄰れる家の主婦より开ハおん身のひがごとなりおん身の腹にハ小兒を妊み居るといへバえづかよみふして倘しも男兒を擧けたらんにハ良人の後をも嗣ぐとを得べし徒らに死ぬるも何の爲にかなふんと死ぬる覺悟で絶ち居たりし食物も强ゐて勸められしかバ王氏も其の理よ服し生殘ることに心を決めにけりされども親族のともがらハこの家の資産に涎れを垂らし頻りに其の齡の弱くして姿色あれバ他の家に

三百一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

嫁しめんと促がせとも王氏ハ更に肯入れざりしが餘まりに腌臢きまで促されて遂にハ免るゝ術を失ひけん良人より遺されし所の良田數畝を分ちて涎する者どもに分ち取らせわが家にハ聊かの資産を留充つゝ分娩の日を待ちたりしに其分娩せし小兒ハ幸ひ男兒にてありければこれより一層心强くさきに手も濡らさずして良田を貰ひ得たる親族の中にハ始めて感する所ありこれを還さんと云ひし者もありけれども王氏ハ程能く之れを辭りて受け取らず專ら其の子の爲めに師匠を家に延きて授讀せしめ朝に夕に少しにても怠るとあれば樣々ゟ諫めさとし聲をあげつゝひたすら潸泣て勉强を促かせしかバ其子ハ長じて博士弟子員に補せふれたるにぞ親族どもハ皆な愧悔することと限りなく盡く其の田を還さんとを云出たり王氏ハ此の時纔やく之れを受けて謝するやう妾事も中々伯叔兄弟に依ふされハ到底未亡人となりて今日までも此業を守るとハ能ハざりしなりと蓋しさきに田を受けさりしハ藉て以て衆の心を安じをき子の成立を俟つが爲めゟしてゟく節ありて且つ智あるハ實に巾幗の丈夫とや謂ハまじ依つて其省の巡撫なりける吳公ハこれを嘉ミし其の門に節婦の門と題したりと曰ふさもあるべきことになん

◎群芳詞苑

○歸雁　磐城棚倉　阿部なほ子

盛りなる花のこかげもわするものをひと夜ハやとれ歸る雁金

○山吹　同　鈴木まる子

慕ハしや世のよしあしハさら〳〵にいわぬ色なる山吹の花

○藤花　同し人

暮れてゆくはる短かしと藤波のこゝろ長くも咲のこるらん

○田家春雨　阪井　游月

久延毘古も濡てそのなくなりぬらん心してふれ小田の春雨

○忍待悲　村上　復子

忍ひつゝ待夜ハいたく更しよりかたふく月を見るも恨めし

○夕花　月並御兼題　花頂宮郁子御方

木下をたちさり兼てけふも又つきになるまてそなを見し哉

○同　權典侍柳原愛子

入あひの鐘よりのちも春の日のくれ殘りたる花のかけかな

○同　典侍高倉壽子

夕つきの影さしなからそゝた川また暮やらぬ花のいろかな

○同　權掌侍税所敦子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

旅寐して見んと思ひし花影もさむくなりぬる夕まくれのな

○同　下田歌子

寐くら訪ふ鳥のはかせに散る花もをりく見ゆる夕月夜哉

○失題　鐵心居士　橋本

生平白眼笑蝿營。難奈世人鶏鶩爭。吾輩不貪些少利。熱心唯願國家盛。

滔々世俗釣虚名。生命自輕利欲爭。石火光中爲何事。不如吾輩一夢清。

評二首俱足見居士生平

○閨秀新品

○立春霞　阪井和歌子

みやまには春立ぬとや棹ひめも霞のころも重ねきにけん

○野遊　樫村瑛子

野遊の名殘りのしや袖の雪

○春興　阪井和歌子

白櫻爛熳四園遮。紅霧糢糊一抹斜。酌酒春風園裡夕。醉眸看雪不看花。

○又　同人

曳杖携童又挈樽。柴門已過向芳園。翠煙隔水誰家柳。酒帘飄風何處村。花馥郁邊蜂影乱。霞糢糊處鳥聲喧。昨宵雨歇吟人閙。橋畔香泥認屐痕。

○探梅記　同人

暗香有意。而導吟客。不須前途問於牧童也。乃尋其暗香。乘和煦之春風。踏青氈之芳草。遥認一抹白雲懸前林。十里香雪堆長堤。漸近香氣馥郁愈高。春衫芳菲皆薰。使有乍到于羅浮山下。乍遊于月瀬溪畔之想矣。少焉夕陽啣西山。何寺暮鐘聲々敲昇一痕月。其趣不可名狀。不覺吟出和靖疏影横斜水淸淺。暗香浮動月黄昏之句來。俗腸頓消。塵情又滅。殆忘歸家。漸及更闌人定旋踵。得々帶香踏月而歸去。餘香未滅間。即向硯作此記。

○數學答　溝口久子

（五千六百十六圓）

右ハ答式を要すれども記者誤て其事を前號ニ記載せざりし故溝口氏も單に答のみ寄せられたり以來ハ何卒其式を寄せられん事を乞ふ式なきものハ其數合ふと雖も登載せず

○新題

和歌（旅宿山吹）　俳句（汐干）

詩（春日郊行）五七言律隨意　文（記夢）和漢文共隨意片假名交りハ三百字を限る

數學題

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

木綿三尺の價金七錢五厘なる時ハ五丈四尺五寸の價幾何なるや其答式を求む

◎女紅

○香道　（前號續）

火末入　是もものゝずき次第用ゆへしかざりの一つなり
焼物ゐみ袋に入る

札十八前　香の品により色々かはる
　瀧の絲に圖あり

さし札　形色々ぁり杆の
　玉水に圖あり

札箱并小箱　瀧の絲に
　圖あり

札筒　形色々唐木象牙などにて作る
　瀧の絲に圖あり

銀盤　青貝にて花の形に作る
　瀧の絲に圖あり

敷紙　大鷹檀紙を用ゆ金銀の箔
　を置く

火筋立　火道具を立置く瓶なり
　瀧の糸に圖あり

香包　十組の形流義に
　より色々かわる

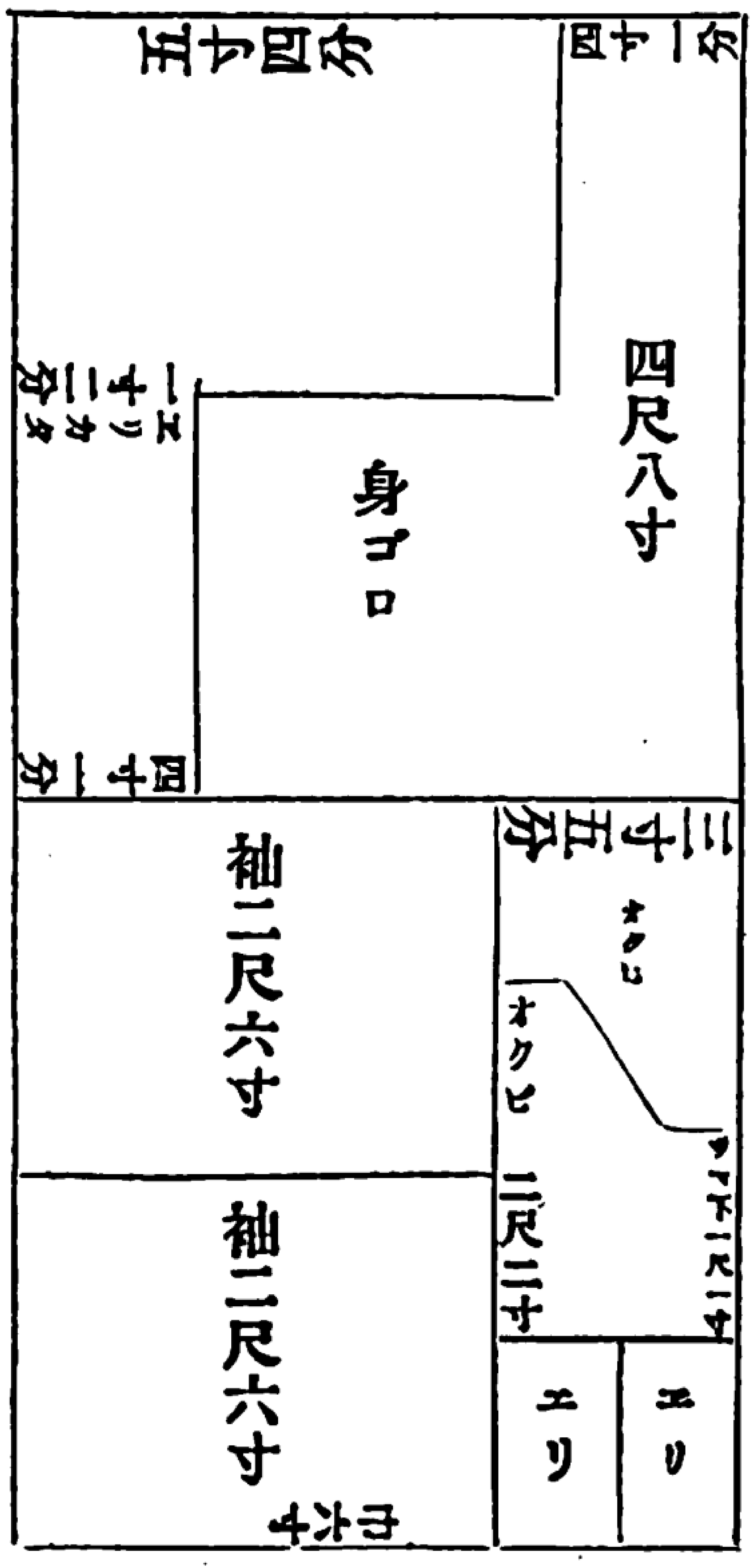
同外包　摸様を以て十組を分つ其外の
　組香も此例に隨ふべし

銀ハさみ　秋の光りに
　委しくあり

此外　鶯、火筋、香筋、灰押羽帚、火味、香匙、炭團入、香疊、香盆、香棚、香割、香鋸、香割盤、組香盤、立物類、置物類、文庫盤、立物たて、折居、伽羅冷、香簞笥、香之圖（折本）香屏風、巾、卓、翰盤、丸香臺あり又香席には法度あり第一身に薫物を焼き又革足袋はくと第二香一遍相濟む迄自餘の咄いたす事第三八とさゝやき談合して札打事第四五息七息の外是又不可聞香爐をとりもどし聞く事第五打たる札をとりかへい事第六香半ばに用所にたつ事第七香半に扇あらくつかひい事然ども時分によりつのひい時ハそろ／＼と分別ありてつかひい事右の條々互に相嗜むべきもの也　（以下次號）

○裁縫　一ッ身仕立揚の寸法及二身背違裁方

一ッ身仕立揚の寸法ハ丈一尺九寸五分衽下り二寸身のあき六寸襟丈け二尺四寸四分袖附け四寸襟巾八分褄下八寸（袖巾身巾衽下）ハ布巾一つぱいに縫ふべし又二ッ身背違の裁方ハ長一丈巾九寸五分にて丈二尺四寸袖一尺三寸圖左の如し



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○年たくる迄皺よらず艶顔なる術

これ女に限らず男とても常に少量づゝ啄木鳥の血を服すれば顔色玉の如く皺よらずしてうるはしき事限りなしと云えり如何にや試み給へ

○ワールン氏西洋料理法の翻譯(前號の續き)

子羊は肉のいろ紅白色にして脂肪多く且つ小体なるを要す子羊の肉は大体燒肉となすを常とすれどもクリストマス例祭日(十二月廿五日)の前ごろには脛肉を煮て白色のソースを加へ食せることもあり

鹿肉を求むるには肩のあたりを刺し臭氣のなきを撰り脂肪厚くして滑らかなるを求むべし腰肉の切口平滑にして緻密なるものは年齢の若きによると知るべし

豕肉は病豕等の惡しき肉を賣るものあるにより正しき肉屋にて求むるか或は能く飼立てたる事の知れたる所より求むべしその脂肪は堅くして肉理の細かく皮平滑なるをよしとす肉に黴れて粘膠ありと思へるゝものは惡肉なり若し脂肪中に仁核の如きもののある時はその豕は痲疹を病みたるなれば決て食すべからず總て豕肉は軟かなるをよしとすれば長く掛けおくべからず

醃豕肉のよきものは皮薄くして脂肪堅く肉は骨に固着して桃色をなすものなり腐敗したる肉には黄色の條紋あり

燻腿肉を求むるには小刀を刺して香氣あるものはよろしけれども惡臭あるものは決て買入るゝべからず

燒肉に用ゆる豕肉は肋肉および脛肉なりとすその他は鹽肉となし脛肉はまた乾かして煮るもよし脇腹を醃豕肉となし脛肉をば燻腿となす

(以下次號)

◎稗史小説

○西江月話

酒可陶情適性兼能解悶消愁三杯五盞樂悠々痛飲翻能損壽」謹厚化成凶險精明變作昏迷禹疎儀狄豈無由狂藥使人多咎

這の首の詞名をば西江月と云ひこれ人に勸めて飲むことを節せしむるの語なり今茲に一人の官員が酒の爲めに非常の禍を惹起したるの一話あり清國は南直隷省淮安府なる淮安衞中に指揮官たる蔡武と云えるは家も富み榮えて召仕ふ僕婢も夥多ありけるが平昔は別に好む所もあらざれど只だ酒がこの人の傷にして酒の面さえ打見れば性命もなつちも入らないと云ふ飲抜なれば人々綽号して蔡酒鬼と呼ひ遂に酒の爲めに官も罷

めて家に引籠れりされば肯た者ハ夫婦とハ昔より能く云習ハせしものにて此人の夫人田氏と云えるもまた杯中の物を嗜み夫婦にて常に會飲をのみなしたりけり此の夫婦の間に三人の子供ありこの子供等ハ皆な奇体に酒を好まそ嗣兒を蔡韜次子を蔡昭と云ひ二人ハ年紀また幼なく其の上に十五才の女兒ありこの女兒生まるゝ時天に一條の紅霓現れて其の色燦爛環をなして屋根の上にありしかバ祥瑞なりとて名を瑞虹と呼び做し蝶よ花よと育たるが瑞虹ハ十二分の容色あるがうへに書畫裁縫插花の類まで女の藝ハ皆なこれを能くし兼ねて智識才能あれば家内の事ハ大小となく掌り兩親ハ只た日夕酒飲み暮してありけるにぞ瑞虹ハ痛くこれを憂ひ折々諫むれども絶えて肯入る樣子ハあらざりけり話兩頭に分るる兵部尚書趙貴と云える人未だ志を得ざるの折ハ淮安衛の隣家に住み貧しく暮し居れども非常の勉強家にして毎夜雞鳴の比までも讀書なしけるに蔡武の父ハ其苦學を憐み時常柴を送り米を送りて其貧を助け後來考科を及第そるを望みありしが果して及第兵部尚書の高官に陞りにければ日比其恩に感じ非職の蔡武を薦擧して湖廣荊襄等の遊擊將軍になさんと特更に使を送りて蔡武を迎えたり蔡武心中大に歡び夫人と商議し日を擇びてはや啓行せんとなしたる時瑞虹ハ頻りに之を止めにければ蔡武ハ何の爲めに止めるぞと云ふ瑞虹答へてされバなり官途となるにハ名を揚げ利を圖るが故に遠き處までも任に赴くなれ然るに阿爺ハ只今家に在そさへ日々酒打ち飲みて何事をもなされざるに若し赴任されなバ一層酒も多く飲み其名を潰さるゝのみかいかで利を得らるゝ事の出來らるべき蔡武ハ之れを聞て云えるやうさても汝ハ日頃の英敏にも似そ左樣にも曉り得ざるぞ瑞虹云ふ夫の遊擊官ハ武職中にありてこそ美任とも稱するなれ文官にありてハ一個の守令官に過ぎず故に不時衙門に出頭して東迎西接朝も早く起き夜も晏く眠らざるべからず平日家に在りてハ酒を飲むと自ら習ひとなり居れハ左樣にありてハ長官の責罰を蒙られんこれ等の利害ハ能く知りてろ御座べけれ或ハ盜賊發生して討手に向ひ或ハ警報あれば兵士を送る等自ら出張するにも馬上ならざれば定めてこれ舟にして身に戎衣を纏ひ手に劍戟を提げ生死の堺にあれバ倘しこの時にして醉ハれたらんにハ忽ちに性命を捨らるゝに至らん如かず家に在りて快く暮らされんにハと蔡武ハ更にこれを消ひす趙尚書の高意空うすべからずとて已に啓行せしかば瑞虹も是非に及ハす然らバ阿爺にハ向後酒飲むことを禁せられよ兒も其れにて安

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

必すべしと幾回の諫むれど禁武ハおのれの身ハ酒にて養ひ居るとなれば全く之を禁するハ甚だ難し只だ以後ハ少量を飲むことなさんとて左の幾句を口吟したり

老夫性與命　全靠水邊酉　寧可不喫飯　豈可不欲酒
今听汝忠言　節飲知謹守　毎常十遍飲　今番一加九
毎常飲十升　今番只一斗　毎常一氣呑　今番分兩口
毎常牀上飲　今番下地嘔　毎常到三更　今番二更後
赴命不直拘　（以下次號）

◎御伽草

○兄弟粟を種ゆ

武州川越在に兄弟のものあり共に議て粟を種たりしに其の粟熟せしかバ兄ハ弟に向て云へるやうこの粟ハ両人にて種たれば分たざるべからす我ハ上の方の半分を取ればお前ハ下半分を取れ來年にならバ我下半分を取るべしと弟ハ其不平に堪えされども兄の事なれバ詮方なく來年を待てありしに兄ハ一向又共に種ゆるの意なきが如くなれバこの事を催促するに兄は今年ハ芋を種えたらバ如何と思ひ居る由答へたりとなん

評　近時爭利之甚雖兄弟如斯決不可油斷也

○書生相家を相す

常に万世橋頭に立ち一柄の天眼鏡を持ちて人相を見るの人あり田舎人ハ勿論舊習を守るの東京人ハ數孔錢を擲ちて見て貰ふ者多し或一日通行の書生これに戯れてお前ハ善く人相を見るとてこゝに出て通行人を相すれどもよもや乃公にハ及ぶまじ試にお前を相してやらふのと云えハ人相家ハせゝら笑ひナンダ青書生奴何をぬかすぞ好し人相を看るとならバ乃公を相して見よとの事に書生ハ然らばとて其天眼鏡を假り相者を視一視してお前ハ決して人相を看得ぬ人と相するなりと云ひ捨て立去りしのば後にて相者ハ呆然

評　陰陽家不知身上其之謂乎

○字謎

日本の國名三ッの内一國ハ二字餘の二國ハ東京より東北に當る處ゑして片名づゝを取たるがこれを集むれバ四字になりて軟かなる飯をたへるとになるなり其國名ハ如何

○謎

橋普請とかけて屑屋に賣る反古と解く其心如何

○十七號西洋謎謎考もの解當者ハ左の如し

西洋謎（十二時號砲）本所山下兼姐築地溝口久姐茅場町佐田

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

德姐銀坐吉川今姐九段阪井和歌姐
謎(第一雨天かふ夜ハ蒸し)下谷赤松氏(第二何事も早わかる)
濱松矢部かく姐番町鶴田濤姐山下兼姐溝口久姐吉川今姐
考物(タマゴ)矢部のく姐横須賀鈴木藤姐赤松氏阪井和歌姐

◎机の塵

○犯姦仕置の續き

一主人の妻と密通いたすと雖も助命の儀主人より願に於てハ下人の者非人の手下に妻ハ永く吉原へ被下
一夫これある處外の夫を持ち候女ハ夫有之儀を男ハ不存候とも古例女ハ死罪男ハ追放
一押て密通いたし候出家ハ死罪女ハ得心の上にてこれなく候と雖も髮を剃候事
一奉公の折主人の妻と密通いたし候て後其女を可切殺と主人宅へ蹈込候者ハ引廻の上獄門但し女ハ死罪
一密夫と申合せ夫を殺し候女ハ引廻の上磔男ハ引廻の上獄門
一主人の娘と申合せ誘引致し候者所ろ拂ひ
一密通致し候男女死罪但し實の夫を殺し候樣すゝめ候歟又ハ手傳いたし殺すに於てハ密夫ハ獄門
一密通致し實の夫に疵付け候もの引廻の上獄門
一密通致し實の夫を殺し候者男女とも引廻の上磔
一主人の妻へ密通の手引いたし候もの死罪
一離別狀を取らす他へ嫁候女ハ髮を剃親元へ歸す但し取持いたし候者過料

(以下次號)

○金言摘錄

色老而衰、智老而多　戰國策　　以文會友、以友輔仁　論語
儉德之共也、侈惡之大也　春秋左氏傳　　禍福無門、唯人所召　同上
事以密成、語以泄敗　韓非子　　爲富不仁、爲仁不富　孟子
千里之堤以螻蟻之穴漏、百尋之屋以突隙之煙焚　淮南子

右諸書中より摘錄せる所古人の金言なり自今每號二三を摘錄して以て作文の材料に供せんと欲す

○男房と云える事　　堯道　春千代

今ハ夫ある女を女房と云ふハ世間普通の稱なれど以前ハ男女に拘わらぞ房と稱せり年山紀聞よ小右記を引て永觀三年四月晦日御座記ニ以ニ十貫一令レ賜ニ男房ニ十貫給ニ女房一と云り又盛衰記にも男方を男房と記せりかゝる故にや水戶西山公和歌披講の時女の聽聞所を女房男方を男房とし僧衆を僧房と稱すべき旨命し給ふ

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

推本主人述

多くのたくみの。心を盡して。みがきたて。唐のやまとの。珍らしく。えならぬ。調度ども。ならべおき。前栽の草木まで。心のまゝならず作りなせるハ。見る目も苦く。いとわびし。さてもやハ。ながらへ住むべき。又時の間の。烟とも成なんとぞ。打見るより思ハるゝ。

〔全旨〕前條の善きに對へて無益なる事をいへる也

〔語釋〕たくみ　大工○唐のやまとの　漢土日本の○えならぬ　宜しき○調度　道具○前栽　庭○わびし　わづらふと類語にして爲方なくさしせまりたる意にて俗に難義と云に同し○時の間の烟　呉融が廢宅詩に不獨凄凉眼前事感陽一火便成原の心にて不時の火災

〔講解〕多人數の大工共か心をこめて美麗にみがき立たる家の内に日本ハさらなり漢土の珍器をならへ庭前の木草も枝を撓め葉をすくり作らせて自慢顔に住みなしても此世ハ假のやどりなれバいつ迄も住むべきにもあらず又存生中よも火事などの爲にハ一時に烟と共に消散んかと思へハ見るも氣の毒に思はるゝとの意也

れはかた。家ゐにてこそ。ことさまハ。推はからるれ。

〔全旨〕人ハ家の建てかた住ゐやうにて心も知らるゝとの意なり

〔語釋〕れはかた　大概○さま　様子

〔講解〕大概人ハ住ひにて主人の心の深淺も推量せらるゝものなれバつき〴〵しくおふまほしきものぞと警戒せられたる也さてこゝハ前をうけて次々住ひにて主人の心を推しはかりたる物語をかきつらねんとていへる也

後徳大寺大臣の。寝殿に。鳶ゐさせじとて。繩をはられたりけるを。西行が見て。とびのゐたらん。なにかハ。くるしかるべき。おれ殿の。御心さばかりにこそとて。その後ハ參らざりけると。きゝ侍るに。

〔全旨〕住ひに叶きて事さまを推し量りたる證を擧たる也

〔語釋〕寝殿　古へハ對の屋とて二ッも三ッもありこれ寝殿なり後の書院に同し○　さばかり　しかばかり也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

改正 本多錦吉郎編

石版摺小學書手本

自第一編至第七編 定價金三錢五厘宛
自第八編至第十四編定價金四錢ッヽ
十四冊郵税廿四錢

小學書學書ハ其類少カラズト雖或ハ冗長ニ亘リ或ハ緻密ニ失シ能ク其當ヲ得タル者甚ダ稀ナルガ如シ然ルニ本編ハ凡ソ文部省改正書手本ニ倣ヒ專ラ書學ノ教授法ニ基キ總テ目ニ慣レタルヲ集メ平易簡單ナルヲ主トシテ一ニ兒童ノ力ニ適センコトヲ務メ且徒ラニ外貌ヲ裝フコトヲナサズ究メテ廉價ニシテ其實アルヲ先ニシ能ク教授法ノ順序ヲ得タル無比ノ良書ナレハ夫ノ杜撰ニ集寫シタル者トハ自ラ異ナル所アルベシ全國ノ學生諸君購閲ノ上其言ノ誣ナラザルコヲ知リ賜ヘ

明治十九年四月出版 東京 神田 **團々社支店**

中村敬宇先生序 湯目北水先生編纂
○歐米女權
全壹冊 定價三十錢 郵便税四錢

東條竹翠著
○婦女庭訓の眞鏡
繪入かなつき 全壹冊 定價三十錢 郵便税四錢

七條峯太郎編輯
○女子必携 女子作文楷梯
鼇頭作文要用字類 和製中本全壹冊 定價金貳拾貳錢 郵便税四錢

馬場審先生著
○啞鈴體操新法
美本全一冊 定價金十錢 郵税金二錢

滑稽新話 **明治流行うそ八百** 壹冊正價二十錢 郵税四錢

漢馬融撰 日本佐藤梘先生旁釋 **○忠經旁釋** 木板手刷 正價拾錢 郵税四錢

○明治英名傳 正價金三十錢 郵税共

人命保險 **○人間長壽法** 正價郵税共三十錢

○清國漫遊誌 正價金四十五錢 郵税自便

東京大賣捌所 **積文舍**

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 **積文舍**

持主兼編輯人 松本義弘
印刷人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌賣捌所

東京芝區愛宕町一丁目三番地 大賣捌所 修正堂
同 神田區淡路町 同 巖々堂
同 神田區雉子町 團々社
同 日本橋區新銭町 長明堂
同 牛込肴町十七番地 活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目 高梘堂
同 蠣売町貳丁目 信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地 盛春堂開田
同 本郷春木町貳丁目 解明堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂
同 牛込區牛込神樂町 積善舍
大坂府備後町四丁目 岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目 立眞舍
藝州廣嶋大手町一丁目 早速社
江州彦根西内大工町 新々堂
陸前國仙台大町四丁目 木村文助
越後國長岡裏壹之町 大橋書房

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY